



特定非営利活動法人

トラ・ゾウ保護基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 5F TEL.03-3595-8088 FAX.03-3595-8090
E-Mail hogokikin@jtef.jp URL [http:// www.jtef.jp](http://www.jtef.jp)

2011 年 9 月 22 日

生物多様性国家戦略改定に向けた意見（発表用）

特定非営利活動法人トラ・ゾウ保護基金（JTEF）

事務局長 坂 元 雅 行

国家戦略改定の諸課題の根本にあるテーマ：「生物多様性の社会における主流化」について、3点提案します。

第1に、生物多様性の社会における優先度が、かえって下がりかねない危機的状況にある、という認識に立って、「主流化」戦略を立てる必要があると考えます。

今回東日本大震災が起こった後、生物多様性保全を口にして良いのかとすら思える雰囲気しばらく続きました。あの悲惨な事態を思えばある程度はやむを得ないこととはいえ、生物多様性保全が社会においていかに優先順位が低いものか、改めて痛感させられました。

余裕の無い時代になればなるほど、生物多様性保全は非主流化する、ということを銘記したいと思います。

第2に、「主流化」のゴールを、よりシビアに設定することが必要だと考えます。

つまり、国民が生物多様性保全のために進んで痛みを分かち合う状況をめざすということです。

具体的な指標の例としては、国民が生物多様性保全のための寄付を増やすこと、その財源のために増税されても受け入れる意思を示すこと、企業であれば本業に直接の関係が薄くても生物多様性保全をCSRの優先的分野と扱うことなどが考えられるでしょう。

このようなゴール設定であれば、達成度の検証も行いやすいと思います。

第3に、主流化戦略における、より踏み込んだ政府の役割を表明することが必要だと考えます。

真にかみ合った国民運動は、容易に成立するものではありません。問題は、国は何をするのか、NGOは何をするのかという役割のあり方です。

戦略 2010 における「主流化」戦略では、明確ではありませんが、ボトムアップが強調されているように思います。しかし、生物多様性保全は、ナチュラルヒストリーの伝統を持つ成熟した社会は別として、本来的にボトムアップに依存できないテーマだと思われます。

なぜなら、生物多様性の国民ひとりひとりの暮らしに対する利害が非常に見えにくいからです。

そこで提案したいのは、まず「生物多様性の政策における主流化」を行い、トップダウンによる社会への浸透を強化することです。「政策」は「政府」と言い換えることもできると思います。さきほどお話ししたとおり、国民が生物多様性保全のために痛みを分かち合う、というゴールをかかげる以上は、当然必要となることです。

一方、NGOにも大きな責任がのしかかっていると思います。

NGOは、先駆的で革新的な取り組みによって社会や政策決定者に刺激を与えるステージでは強みを持ちます。また、一定の意識を持った人を積極的に行動するまで引っ張り上げるステージでも力を発揮します。そこがNGOの主要な役割ではないかと思います。

しかし、どんなにすばらしい種子を持っていても、優秀な畑仕事をする能力のある人がたくさん控えていたとしても、それだけでは広大な土地に実りは実現しません。川を氾濫させ、肥沃な土地を生み出す強大な力が必要です。

提案は以上ですが、最後に、トラ・ゾウ保護基金として取り組まなければならないと考えていることを申し上げたいと思います。

東日本大震災の被災者支援では、東北にまったく縁のない人でも、自らの負担で支援を行うことを厭いませんでした。利害ではなく、compassion＝「共にする思い」が人々を動かしたのだと思います。個人レベルで見れば、Compassionが「主流化」のひとつの鍵になる可能性があります。

ただし、「生物多様性」という言葉自体には compassion は向かわないでしょう。実体が見えないからです。

また、「考えよう」「意識しよう」というメッセージにも compassion は及ばないでしょう。そこに心を揺さぶるものがないからです。

生きものやそれとともに生きる人々の受けている、あるいは近い将来受けるであろう苦難にこそ、人々の compassion が向かうのではないかと思います。

トラ・ゾウ保護基金は、このような観点から、「主流化」のための普及活動に取り組んでいきたいと考えています。